

生きものの元気米

生きものの調査からわかったこと

～市民参加型調査の成果～



NPO法人河北潟湖沼研究所

● 2019年・生きものの調査をおこなった田んぼ



2019年の「生きものの元気米」田んぼは 8枚



市民参加型調査 (陸生昆虫類)



市民参加型調査 (底生動物)

2019年調査・スィーピング 空中散布前



無農薬 A
2019.7.28.



慣行 A
2019.7.28.

無農薬の水田のほうがバッタ、キリギリス類が多い。

2019年スィーピング調査 慣行農法水田



2019.7.28.(空中散布前)



2019.8.4.(空中散布後)



2019.8.18.

害虫のウンカ類が
空散後しばらくして急増した。

2019年スィーピング調査・無農薬水田



2019.7.28.(空中散布前)



2019.8.4.
(空中散布後)

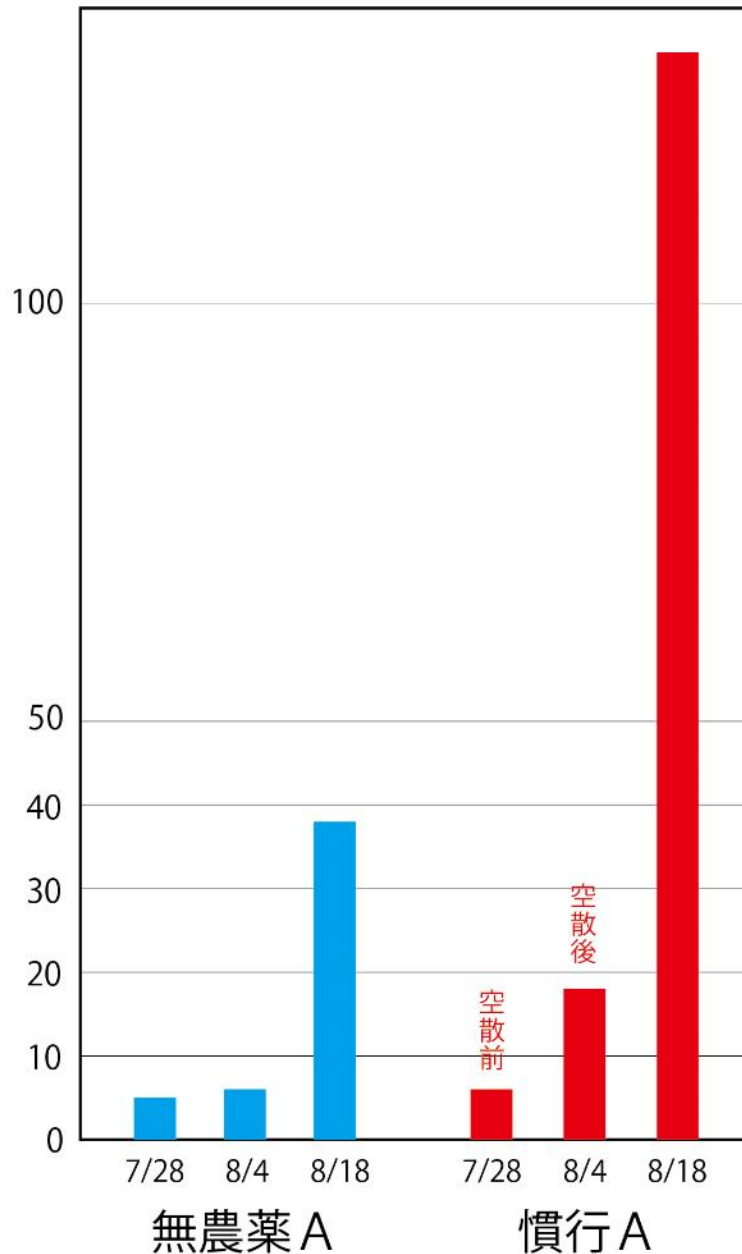


2019.8.18.

ウンカ類は増えたが
慣行にくらべたら少ない
。クモ類が多かった。

2019年市民参加型 スィーピング調査の結果

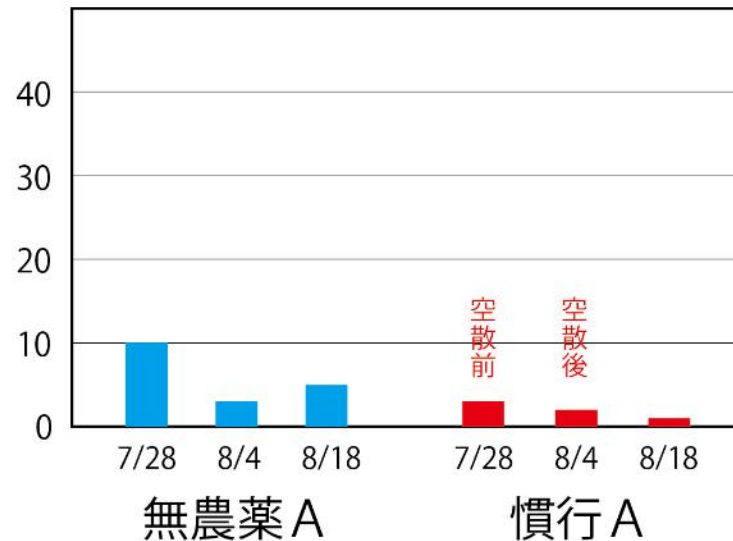
ウンカ・ヨコバイ類



8月18日の慣行の田んぼでは、
害虫のウンカが非常に多かった。

セジロウンカ 14匹
セジロウンカモドキ 90匹
ヒメトビウンカ 25匹
ヨコバイ（幼虫） 1匹

カメムシ類



無農薬 A 慣行 A

8/18 (空散実施から約 20 日後)



2019年調査の結果から

防除したいカメムシ類はもともと少ない。
害虫のカメムシはわずかしか捕獲されなかった。

空中散布では、ウンカ、ヨコバイは減らない。
むしろ、8月の下旬に増える傾向がみられ、無農薬よりも、
慣行（農薬使用）のほうが数が多く確認される。

バッタ、キリギリス類は、無農薬の水田で個体数が多い。

ユスリカ類は、無農薬の水田で非常に多く、
慣行（農薬使用）ではほぼ確認されない。

ドブシジミやカイエビも、無農薬水田に多く
ドブシジミの稚貝の数も無農薬水田で多数確認された。

無農薬水田のほうが種の多様性があった。

調査結果をまとめたパンフレット

<http://kahokugata.sakura.ne.jp/pdf/pamph/tanbocyouusa202001.pdf>